

MS&AD Report

通期ご報告

2011.4.1～2012.3.31

証券コード:8725

立ちどまらない保険。

MS&AD MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

目次

- 01 2011年度通期 ビジネスレビュー
- 03 株主の皆さまへ
- 07 東日本大震災に対する当社グループの取り組み
- 08 インフォメーション
- 09 業績ダイジェスト(2011年度通期)
- 13 会社概要／役員／株式の状況
- 14 株主メモ



持続的成長と企業価値向上を
追いつける世界トップ水準の
保険・金融グループを創造します。

取締役社長

江頭 敏明



株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災の発生から1年あまりとなりますが、いまだ避難生活を余儀なくされている方が多くいらっしゃいます。改めて衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年度のわが国経済は、東日本大震災の影響によって落ち込んだ生産活動が徐々に上向くなど、一部に景気の持ち直しの動きが見られましたが、円高や欧州の政府債務問題などの影響を受け、全体としては緩やかな回復にとどまりました。

また、国内外で多くの自然災害が発生し、当社グループにとりましても、保険会社としての社会的責任と役割を改めて見つめ直す年となりました。

このような中、当社グループは2010年度からスタートした中期経営計画「MS&AD ニューフロンティア2013」を推進し、事業の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、2011年度の連結業績は正味収入保険料が2兆5,588億円と、前期比174億円の増収となりました。一方、

タイの洪水等の自然災害による保険金支払いに加え、有価証券評価損や法人税率引き下げに伴う繰延税金資産取崩の影響により、誠に遺憾ではございますが、当期純利益は1,694億円の損失計上となりました。

このような外部環境の変化や自然災害の影響を踏まえ、中期経営計画の一部見直しを行っております。

なお、2011年度の配当金につきましては、前年度と同様の1株あたり年間54円とさせていただきます、株主の皆さまへの安定的な還元を継続してまいります。

当社グループでは、今年4月にインドにおける大手生命保険会社との戦略的資本提携を発表するなど海外を含めた積極的な事業展開を行っており、従来どおりグループの総合力を結集して、持続的成長を追求してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月

中期経営計画について

MS&ADインシュアランス グループでは、2010年度にスタートした中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」に掲げる基本戦略の着実な実行を通じて企業価値の向上を図ってまいりました。

その結果、国内損保事業の保険料収入が好調に伸長し、国内生保事業もEV(エンベディッド・バリュー。生命保険会社の企業価値・業績評価指標のひとつ)が成長し存在感を高めるなど、着実な成長を遂げてまいりました。海外事業に関しても、アジアを中心に順調に成長をしており、積極的な事業展開を行ってまいりました。また、経営統合によるシナジー効果も順調に発揮し、成長領域への戦略的な事業投資も相次いで実施するなど、

将来に向けた収益拡大のための事業基盤はこの2年間で更に確かなものとなりました。

一方、国内外における自然災害の多発や運用環境の悪化など外部環境の変化を踏まえ、「MS&ADニューフロンティア2013」における2013年度の目標数値を修正することといたしました。修正後の目標数値は下表「2013年度修正目標」をご覧ください。なお、株主持分に対するリターンの指標である「グループROE」の目標値(2013年度「7%」)に修正はありません。

経営環境は厳しい状況にありますが、引き続き中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」に掲げる基本戦略の着実な実行を通じて成長サイクルの好循環を創出するとともに、利益の拡大を通じて株主還元の増大を目指してまいります。

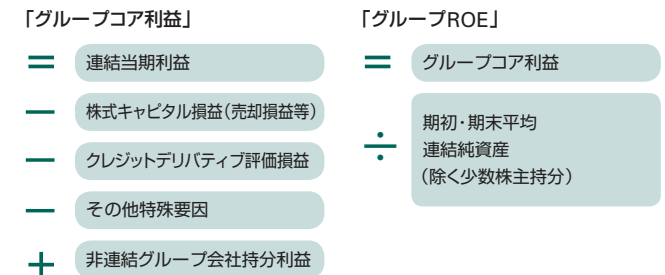
(億円)

	2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度 見込	2013年度修正目標 ()内修正前	
正味収入保険料	25,414	25,588	26,300	27,000	(27,000)
保有契約 年換算保険料*1	2,790	2,960	3,200	3,300	(3,300)
グループコア利益*2	145	△ 875	800	1,100	(1,500)
国内損保事業	65	197	560	600	(1,000)
国内生保事業	41	43	60	150	(150)
海外事業	18	△ 1,123	160	300	(300)
金融サービス事業/リスク関連事業	19	7	20	50	(50)
グループROE*2	0.8%	△ 5.6%	5.3%	7.0%	(7.0%)

※1 三井住友海上あいおい生命の数値になります。(三井住友海上プライマリー生命は含みません。)なお、2010年度は三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の合算値を表示しています。

※2 「グループコア利益」ならびに「グループROE」の定義は右記のとおりです。「グループコア利益」は、MS&ADインシュアランス グループの収益力を示す独自の利益指標で、株主還元のベースともなる指標です。

「グループコア利益」「グループROE」の定義



中期経営計画の進捗状況

〈国内損保事業〉

国内損害保険事業においては、2010年10月にあいおい損保とニッセイ同和損保の合併によりあいおいニッセイ同和損保が誕生しました。その後も、国内損保事業の共通プラットフォームとなる新ITシステム(2013年度稼働を予定)の構築を進めるなど、グループシナジーの発揮に向けた取り組みが順調に進み、各社における取り組みも順調に進捗しています。

- 三井住友海上においては、独自の商品力と生保営業職員チャネルなど強みのある販売網を活かして、正味収入保険料が伸びています。
- あいおいニッセイ同和損保においては、合併により生まれたトヨタ、日本生命マーケットという2本柱を営業の中心に収益構造の改革と成長戦略の構築に取り組んでいます。

国内損保子会社の正味収入保険料

	正味収入保険料	
	2010年度	2011年度
三井住友海上*1	1兆2,305億円	1兆2,692億円
あいおいニッセイ同和損保**2	1兆973億円	1兆746億円
三井ダイレクト損保	331億円	343億円

※1 三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。

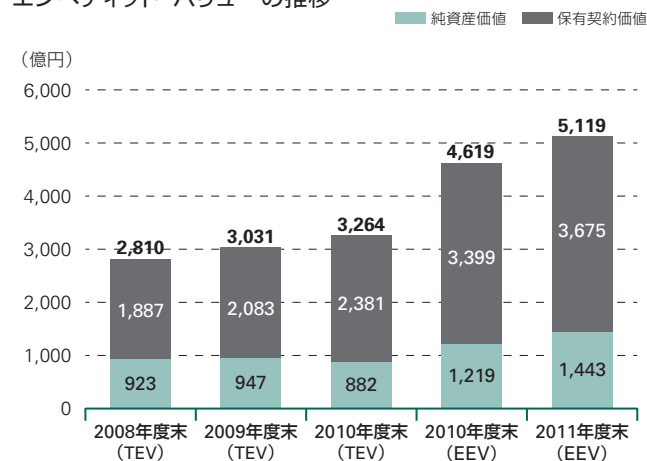
※2 2010年度は、合併前のあいおい損保とニッセイ同和損保の単純な合算値となります。

〈国内生保事業〉

●三井住友海上あいおい生命は、広範で強固なグループ損保の営業基盤を活用したクロスセルを軸に、金融機関、生保プロ代理店、直販社員を通じて、魅力的な商品・サービスをお客さまに提供し保有契約額を伸ばしてまいりました。EVも下図のとおり順調に拡大しています。

●なお、当社グループでは、生命保険会社のEV算出を、2011年度末から市場整合的手法を用いた「EEV」により行うこととしました。(2010年度末分も「EEV」により再計算しています。)これにより、開示における客観性や透明性がいっそう高まることになりました。

エンベディッド・バリューの推移



※2010年度末以前は、合併前の三井住友海上きらめき生命とあいおい生命の単純な合算値を表示しています。

●三井住友海上プライマリー生命は、充実した販売チャンネルを通じてお客さまに変額年金保険と定額年金保険を安定的に提供し、個人年金保険業界のリーディングカンパニーとしての地位を堅持しています。今後とも、商品ラインアップの更なる拡充等を通じて更なる成長につなげてまいります。

〈海外事業〉

当社グループの成長事業領域のひとつとして、生損保両面において積極的な事業投資を進めています。特に成長著しいアジア地域において、三井住友海上は2011年7月のシナールマス・グループ(インドネシア)との資本提携に続き、今年4月にはマックス・インディア・グループ(インド)との資本提携合意を行いました。あいおいニッセイ同和損保でも、中国現地法人が浙江省に支店を開設するなど、一段と事業の拡大に取り組んでいます。

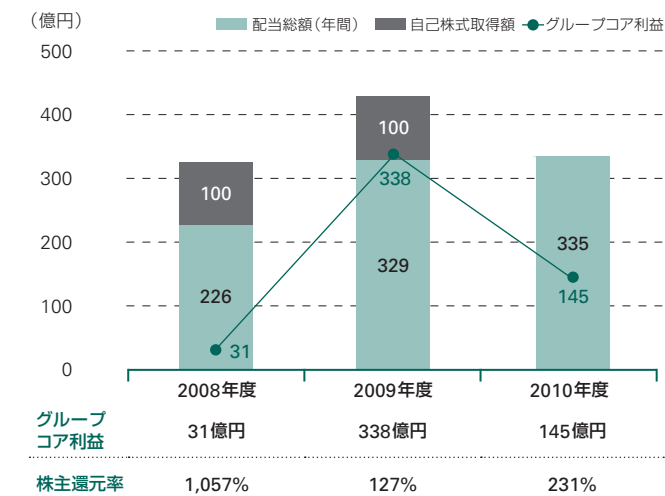
当社の株主還元方針について

グループの中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」では、統合効果の発揮と成長戦略の推進による収益の拡大を株主還元の増大へとつなげることを謳っています。具体的な株主還元としては、配当と自己株式の取得を通じ、中期的に「グループコア利益」の50%を目処として利益還元を行ってまいります。また、成長領域への積極的な事業投資を継続することにより持続的な成長サイクルを実現し、利益の拡大を通じて株主還元の増大を目指します。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

MS&ADホールディングス	(=MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社)	あいおい生命	(=あいおい生命保険株式会社)
三井住友海上	(=三井住友海上火災保険株式会社)	三井住友海上あいおい生命	(=三井住友海上あいおい生命保険株式会社)
あいおいニッセイ同和損保	(=あいおいニッセイ同和損害保険株式会社)	三井住友海上メットライフ生命	(=三井住友海上メットライフ生命保険株式会社)
あいおい損保	(=あいおい損害保険株式会社)	三井住友海上プライマリー生命	(=三井住友海上プライマリー生命保険株式会社)
ニッセイ同和損保	(=ニッセイ同和損害保険株式会社)	インターリスク総研	(=株式会社インターリスク総研)
三井ダイレクト損保	(=三井ダイレクト損害保険株式会社)	MS&ADシステムズ	(=MS&ADシステムズ株式会社)
三井住友海上きらめき生命	(=三井住友海上きらめき生命保険株式会社)		

株主還元額 年度別実績



※2008年度は三井住友海上グループの数値、2009年度は三井住友海上グループ・あいおい損保・ニッセイ同和損保の合算値を表示しています。
※株主還元率：以下のような方法で算出しています。〈「2008年度」の例〉

$$\frac{\text{2008年度に関する配当 (2008年12月、2009年6月)} + \text{2009年度に行った自己株式の買付け}}{\text{2008年度の「グループコア利益」}}$$

東日本大震災で被災されたお客さまへ、心よりお見舞い申し上げます。MS&ADインシュアランス グループでは、今後も迅速な保険金等のお支払いと、被災地の復興支援に努めてまいります。

ボランティア活動

MS&ADインシュアランス グループでは、被災地支援の一環として2011年7月末～9月末の2か月間、全9回にわたりボランティア活動を実施し、グループ社員計104名が参加しました。現地のNPO法人と連携した本活動は、震災により被害を受けた田んぼのがれき撤去や清掃を行うことで、多様な生き物が生息する元の豊かな水田に再生することを目的として実施されました。また、2012年6月上旬には再生後の田んぼで田植え作業を行うなど、今後も被災地支援につながる活動にグループを挙げて取り組んでいきます。



現地での活動の様子(南三陸町)

義援金の寄付

MS&ADインシュアランス グループでは、被災地・被災者の方々の支援を目的に義援金を募り、最終的に2万人を超えるグループ各社の社員から9,000万円を超える義援金が集まりました。災害時義援金マッチングギフト制度による会社拠出分と合わせた総額

1億5,000万円は、日本赤十字社や被災者支援活動を行う団体など10団体へ寄贈しました。また、グループ会社の海外現地法人・支店などからも義援金が寄せられ、別途3,225万円を寄贈しました。



緊急支援では子どもの保護を最優先に「こどもひろば」を開設(2011年3月)
©Save the Children Japan

社員食堂で復興支援

三井住友海上は、2012年3月より、東日本大震災で被災した水田の復興支援を目的に、全国5か所の社員食堂で「福幸米」を使用したメニューの提供を開始しました。本活動は、毎月11日を「福幸米の日」と定めて、肥料・農薬5割削減の「福幸米(ササニシキ)」のご飯を販売するもので、米1袋につき200円が寄付として、津波の被害を受けた水田の整備等に活かされます。今後も、長期的な復興支援を目指して、10年間を目標に「福幸米」の提供を継続していきます。



福幸米

復興支援チャリティーコンサートを開催

あいおいニッセイ同和損保は、東日本大震災から1年が経過した宮城県仙台市内にて、復興支援チャリティーコンサート「高嶋ちさ子12人のヴァイオリニスト」を開催し、被災地域の皆さま1,000名をご招待しました。

このコンサートには、あいおいニッセイ同和損保のコンサートホール「ザ・フェニックスホール(大阪)」の2011年度上期自主公演(計6回)のチケット売上金を開催費用に充てました。



チャリティーコンサート2部ハイライト

2012年7月27日に開幕する「ロンドンオリンピック」に、MS&ADインシュアランス グループより2名の選手が出場いたします! 日本代表に選出された三井住友海上の上野順恵選手、中村美里選手と、パラリンピックの代表候補に選ばれた三井住友海上あいおい生命の米田真由美選手をご紹介します!(掲載情報は2012年6月5日時点のものです)

出場選手の紹介

三井住友海上

女子柔道63kg級 上野 順恵選手

Yoshie Ueno

最終選考会の全日本選抜柔道体重別では、本場にたくさんの応援をありがとうございました。皆さんの応援がとても力になりました。オリンピックでは金メダルを目指して頑張りますので、これからも応援よろしくをお願いします。



腕挫十字固で一本を取りました



PROFILE

北海道出身。2002年に入社(企業営業第一部に所属)。段位四段。世界柔道選手権大会に日本女子柔道63kg級代表として3年連続で出場し、09年、10年と金メダルを獲得し2連覇。11年は銀メダルを獲得するなど数々の大会で活躍。現在、IJF(国際柔道連盟)世界ランキング1位。

女子柔道52kg級 中村 美里選手

Misato Nakamura

いつもたくさんの応援をありがとうございます。ロンドンオリンピックでは北京(銅メダル獲得)の悔しさを晴らしたいので、自分の持っている力をすべて出し切って、金メダルを獲りたいと思います。応援よろしくをお願いします。



3試合中2試合を一本勝ち



PROFILE

東京都出身。2008年に入社(東京本部に所属)。段位四段。2008年北京オリンピックに日本女子柔道52kg級代表として出場し、銅メダルを獲得。平成生まれの初のメダリストとなる。その後も世界柔道選手権大会に3年連続で出場し、09年、11年は金メダルを獲得、10年は銀メダルを獲得した。現在、IJF(国際柔道連盟)世界ランキング3位。

三井住友海上あいおい生命

視覚障がい者女子柔道-57kg級 米田 真由美選手

Mayumi Yoneda

いつも本場に多くの応援をありがとうございます。初めてのパラリンピックに出場できましたら、一試合一試合を大切に、メダルを目指し戦いたいと思います。応援よろしく願いいたします。



あいおいニッセイ同和損保

“交通事故などで障害を負った人たちの社会復帰や自立に役立ちたい”という思いから、車椅子バスケットボール日本代表チームのオフィシャルスポンサーとして、競技活動をサポートしています。日本代表男子チームは、ロンドンパラリンピックの出場が決定しています。



Photo by JWBF

業績ダイジェスト(2011年度通期)

連結業績について

連結ベースの正味収入保険料は2兆5,588億円と、前期に比べて0.7%の増収となり、前期に続き、増収となりました。

経常損益は、タイの洪水など国内外の自然災害による発生保険金(正味支払保険金と支払備金繰入額の合計)の増加や有価証券評価損の増加を主因として、前期に比べ1,172億円減益の962億円の損失となりました。

当期純損益は、翌期以降の法人税率の変更などに伴い繰延税金資産を取崩した影響もあり、前期に比べ1,748億円減益の1,694億円の大幅な損失となりました。

国内損害保険子会社の業績について

(三井住友海上 単体)

正味収入保険料は1兆2,692億円と、前期に比べ3.1%、387億円の増収となり、前期の増収率を超える伸びとなりました。

経常損益は、タイの洪水に係る発生保険金や有価証券評価損の計上を主因に1,301億円の損失となりました。当期純損益は1,306億円の損失と、前期に比べ1,534億円の減益となりました。

(あいおいニッセイ同和損保 単体)

正味収入保険料は長期火災保険の出再保険料の増加や自動車保険の受再保険料の減収などにより、1兆746億円と、前期に比べ2.1%の減収となりました。

経常損益は、タイの洪水に係る発生保険金を主因として、前期に比べ68億円減益ながら92億円の利益となりました。当期純損益は、法人税率の変更に伴う繰延税金資産の取崩の影響や有価証券評価損などに係る繰延税金資産の評価性引当額の増加もあり、前期に比べ321億円減益の435億円の損失となりました。

(三井ダイレクト損保 単体)

正味収入保険料は343億円と、前期に比べ3.7%の増収となり、当期純利益は3億円(当社出資持分)となりました。

国内生命保険子会社の業績について

(三井住友海上あいおい生命 単体)

新契約件数(個人保険・個人年金保険)は前期に比べ1.6%増加し、35.9万件となりました。保有契約高(個人保険・個人年金保険)は前期に比べ9.9%増加し、18兆624億円となりました。

当期純損益は、合併関連費用を計上したことや、法人税率の変更の影響などにより、113億円の損失となりました。

(三井住友海上プライマリー生命 単体)

健全性強化のため危険準備金を追加で積立てたことや、定額年金商品に係る評価損益の減少などにより、当期純利益は前期に比べて127億円減益(*)の59億円となりました。

(※)連結決算ベースでは、当期に当社の完全子会社となったため(前期は持分法適用会社(持分割合50%))、33億円の減益となっております。

海外保険子会社の業績について

アジア地域で大幅に増収したものの、欧州地域および再保険子会社での減収や円高の影響などから、正味収入保険料は前期に比べ1億円増加の1,807億円と、ほぼ前期並みとなりました。当期純損益は、タイの洪水やニュージーランドの地震などによって発生保険金が増加したことなどにより、前期に比べ112億円減益の67億円の損失となりました。

(注)「業績ダイジェスト」では、三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。また、三井住友海上あいおい生命の業績については、三井住友海上きらめき生命における前期業績とあいおい生命における前期業績の単純合算値との比較を記載しています。

2011年度 連結決算の概要(MS&ADホールディングス 主要項目)

(億円)

	2010年度	2011年度	比較増減	増減率(%)
正味収入保険料	25,414	25,588	174	0.7
経常利益又は経常損失(-)	210	-962	-1,172	-
当期純利益又は当期純損失(-)	54	-1,694	-1,748	-
総資産	114,450	145,372	30,922	27.0
純資産	16,333	15,121	-1,212	-7.4

○2010年度の業績(経常利益又は経常損失、当期純利益又は当期純損失)には東日本大震災による発生保険金647億円(家計地震保険を除く)、2011年度の業績(経常利益又は経常損失、当期純利益又は当期純損失)にはタイの洪水による発生保険金2,735億円の影響が含まれています。

種目別保険料・保険金(グループ合計)

種目別正味収入保険料

(億円)

	2010年度		2011年度	
	増減率(%)		増減率(%)	
火災	3,545	-4.6	3,396	-4.2
海上	894	6.2	873	-2.3
傷害	2,127	1.9	2,195	3.2
自動車	12,895	3.0	13,027	1.0
自賠償	2,738	0.4	2,916	6.5
その他	3,212	-2.6	3,178	-1.0
合計	25,414	0.9	25,588	0.7

種目別正味支払保険金

(億円)

	2010年度		2011年度	
	増減率(%)		増減率(%)	
火災	1,373	-10.1	4,733	244.6
海上	398	-13.9	488	22.5
傷害	1,125	-2.2	1,133	0.7
自動車	8,370	4.6	8,481	1.3
自賠償	2,608	1.1	2,632	0.9
その他	1,984	-17.7	1,945	-2.0
合計	15,861	-1.7	19,413	22.4

(注) 保険料については、三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。

国内損害保険子会社における主要数値および指標の状況

(億円)

	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井ダイレクト損保(単体)	
	2010年度	2011年度	2010年度	2011年度	2010年度	2011年度
正味収入保険料	12,305	12,692	10,973	10,746	331	343
(対前期増減率)	2.2%	3.1%	-0.8%	-2.1%	2.1%	3.7%
正味損害率	68.4%	84.8%	68.2%	79.7%	76.6%	77.4%
正味事業費率	33.9%	33.3%	35.6%	35.1%	21.9%	21.4%
コンバインド・レシオ	102.3%	118.1%	103.8%	114.8%	98.5%	98.8%
保険引受利益又は保険引受損失(-)	-503	-1,700	-333	-200	1	2
資産運用損益	839	365	514	204	2	2
経常利益又は経常損失(-)	317	-1,301	160	92	3	4
当期純利益又は当期純損失(-)	228	-1,306	-114	-435	3	5
純資産額	10,450	9,326	4,766	4,100	99	106
単体ソルベンシー・マージン比率 (新基準)	(参考)534.7%	486.8%	(参考)508.7%	442.6%	(参考)419.4%	424.4%
(旧基準)	768.8%	-	681.6%	-	640.0%	-

- (注) 1. 三井住友海上の正味収入保険料、正味損害率、正味事業費率およびコンバインド・レシオは、同社独自商品の自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。
 2. 正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料×100
 3. 正味事業費率=(諸手数料及び集金費+保険引受に係る営業費及び一般管理費)÷正味収入保険料×100
 4. コンバインド・レシオ=正味損害率+正味事業費率

○単体ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な指標の一つであり、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が前事業年度においては、改正前の基準(旧基準)による単体ソルベンシー・マージン比率が、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標であり、改正後の基準による

国内生命保険子会社における主要数値および指標の状況

(億円)

	三井住友海上 あいおい生命(単体)		三井住友海上 プライマリー生命(単体)	
	2010年度	2011年度	2010年度	2011年度
新契約件数	354,100件	359,837件	44,983件	43,069件
保有契約高	164,329	180,624	30,830	31,225
保有契約年換算保険料	2,790	2,960	4,355	4,389
基礎利益	-2	41	285	280
当期純利益又は当期純損失(-)	-71	-113	187	59
純資産額	858	1,024	542	605
単体ソルベンシー・マージン比率(新基準)	(参考)(※)	1,212.8%	(参考)671.8%	775.5%
(旧基準)	-	-	1,026.4%	-

- (注) 1. 新契約件数、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計を記載しています。
 2. 年換算保険料は、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額を示しています。
 3. 基礎利益は、保険本業の収益を示す指標の一つで、「経常利益」から「キャピタル損益」と「臨時損益」を控除したものです。
 ※2010年度の単体ソルベンシー・マージン比率(新基準)は、三井住友海上きらめき生命1,276.8%、あいおい生命1,465.2%
 (旧基準)は、三井住友海上きらめき生命2,127.0%、あいおい生命1,954.1%

海外保険子会社の状況

(億円)

	2010年度		2011年度	
			比較増減	増減率(%)
正味収入保険料	1,806	1,807	1	0.1
アジア	775	864	88	11.4
欧州	546	479	-66	-12.2
米州	295	294	-0	-0.2
再保険	188	168	-19	-10.5
当期純利益	45	-67	-112	-249.0
アジア	84	108	24	29.2
欧州	-125	-128	-2	-
米州	21	15	-5	-25.9
再保険	65	-63	-129	-196.8

適当である」とされています。また、単体ソルベンシー・マージン比率は、リスク計測の厳格化等を図るため、当事業年度末(2012年3月31日)から算出にかかる法令等が改正されています。前事業年度の単体ソルベンシー・マージン比率は参考として表示しています。

会社概要 / 役員 / 株式の状況

■会社概要 (2012年3月31日現在)

社名	MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区八重洲一丁目3番7号
設立	平成20年(2008年)4月1日
資本金	1,000億円
従業員数	36,929名(連結)

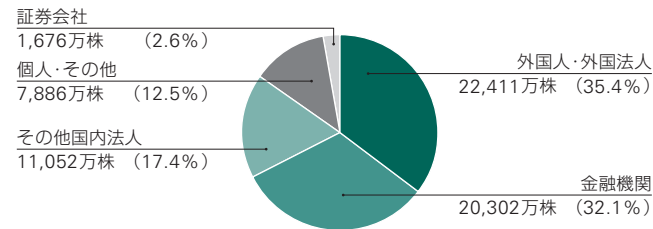
■役員 (2012年6月26日現在)

取締役社長(代表取締役)	社長執行役員	江頭 敏明
取締役(代表取締役)	執行役員	柄澤 康喜
取締役(代表取締役)	執行役員	鈴木 久仁
取締役(代表取締役)	執行役員	米田 正典
取締役	専務執行役員	藤本 進
取締役	専務執行役員	堀本 修平
	専務執行役員	梅村 孝義
	執行役員	岸本 保夫
	執行役員	藤井 史朗
取締役	執行役員	土屋 光弘
取締役	執行役員	飯島 一郎
	執行役員	西方 正明
	執行役員	吉野 二良
	執行役員	金杉 恭三
取締役	執行役員	柳川 南平
社外取締役		渡邊 顯
社外取締役		角田 大憲
社外取締役		小川 是
社外取締役		松永 真理
監査役(常勤)		池田 克朗
監査役(常勤)		中村 仁義
社外監査役		安田 莊助
社外監査役		野村 晋右
社外監査役		手塚 裕之

■株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行済株式の総数	633,291,754株
株主数	74,892名

所有者別分布状況



大株主状況(上位10名)

株主名	保有株式数 (万株)	持株比率 (%)
トヨタ自動車株式会社	5,261	8.3
日本生命保険相互会社	3,632	5.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,001	4.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,774	4.4
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,493	3.9
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	1,242	2.0
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1,054	1.7
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	906	1.4
NATSCUMCO	892	1.4
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	870	1.4

※当社は自己株式1,138万株を保有していますが、上記大株主から除いています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内に開催します。
配当の基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 (注) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、 定款の規定によりお支払いできなくなりますので、 お早めにお受け取りください。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社および 三菱UFJ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告の方法により、下記ホームページに 掲載します。ただし、事故その他やむを得ない 事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載 します。 http://www.ms-ad-hd.com/company/notification/index.html

株式に関するお手続きについて

- お受け取りがお済みでない配当金を受け取るお手続き
三井住友信託銀行株式会社までお申し出ください。
- その他のお手続き
(1) 証券会社に口座をお持ちの場合：お取引先の証券会社
へお申し出ください。
(2) 証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座で管理され
ている場合)：下記お問合わせ先へお申し出ください。
(お手続きの例)
ご住所を変更される場合
今後の配当金のお受け取り口座のご指定をされる場合
単元未満株式の買取・買増のご請求をされる場合 など

単元未満株式の買取・買増請求について

証券取引所で売買できない、100株未満の株式(単元未満株式)
については、買取・買増のご請求により整理することができます。

- 単元未満株式の買取請求(当社に株式の買い取りをご請求いただく
方法)
(例)株主さまのご所有の150株のうち、当社が50株を買い取ります。
→株主さまのご所有の株式は100株となります。
- 単元未満株式の買増請求(当社から株式を買い増して100株単位と
していただく方法)
(例)株主さまのご所有の150株に加え、当社から50株を買い増し
ます。
→株主さまのご所有の株式は200株となります。

お問合わせ先

三井住友信託銀行株式会社
〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-176-417
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711

立ちどまらない保険。

MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

<http://www.ms-ad-hd.com>